

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.803 2021

2021年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

コロナ禍で問われる YMCAのユース・エンパワーメント

日本YMCA同盟 総主事 田口 努

「盗まれた未来」、「パンデミック世代」、「終わりのない隔離・孤独」。世界YMCA・YWCA合同祈祷週のブックレットでは、若者は自分たちのことをこう表現している、と書かれています。また、世界YMCA同盟は、新型コロナウイルスによるユースへの影響の中でも特に大きい「雇用」「教育」「メンタルヘルス」について、今後特に力を入れていくと明言しています。

2017年に日本のYMCAでは、「ユース・エンパワーメント—100万人の声調査—」として、国内9つのYMCAの協力によりグループインタビューを実施しました。「雇用」「健康」「環境」「参画」をテーマに、アンケートでは把握しきれない「若者の声」を集めて分析しました。

そして、2020年9月、コロナ禍において影響を受けているユースの現状を知り、その実態について社会へ発信していくことを目的として、日本YMCA同盟ユース委員会ではアンケートによる意識調査を行いました。この「全国YMCAユースボランティア意識調査—新型コロナウイルス感染症影響下におけるユース世代の生活とボランティア活動—」には552名が回答、アンケートの結果から、コロナ禍においてもボランティア活動を継続しようという意欲を維持するユースが数多くいることがわかりました。そして同時に、不安、困難、孤独感を抱えている姿、さらに困難なときだからこそ工夫をし、前に進もうとする姿勢も読み取れました。こうしたさまざまなユースの声をしっかりと受けとめたいと思います。

新型コロナウイルスがもたらした変化の一つとして、国内外において新しいテクノロジーの活用が広がったことが挙げられます。オンラインではさまざまな「ユースが集う機会」が実施され、新しい「つながり」を生み出しました。世界YMCA同盟のユースサミット、全国リーダー研修会、学生YMCAのオンラインゼミなど目の前にない、物理的な距離があるからこそ、より一層積極的に自ら「つながろう」とする気持ちが生まれ、実施後も継続してつながりあっていこう、課題に取り組んでいこうという#はなれていてもつながっていることを実践しています。

人間が成長する過程において、生涯を決定づける自己の確立、つまりアイデンティティを形成する青年期に、YMCAは創立時より関わりつづけてきました。ジョージ・ウィリアムズが同じ青年として、悩み苦しむ青年のために立ち上がったのがYMCAの始まりです。このコロナ禍であるからこそ、ユース世代は多様な価値、人々との出会いの場が必要なのです。そして、子どもたちのために活動を続けていこうとすること、環境問題に積極的に取り組む世界のYMCAのユースに刺激を受け、意識が変わっていくこと、新しい取り組みにチャレンジすること、YMCAのユースは多様な姿を見せてくれています。ユースがイニシアティブを発揮し、主体的にアクションを起こしていく。いまこそユースの声を聴き、ユースエンパワーメントのために歩みたいと思います。

第21回日本YMCA大会を開催します

「いまこそ、ポジティブネット みつける、つなげる、よくなっていこう！」

2021年2月5日（金）ユースナイト 2021年2月23日（火・祝）本大会

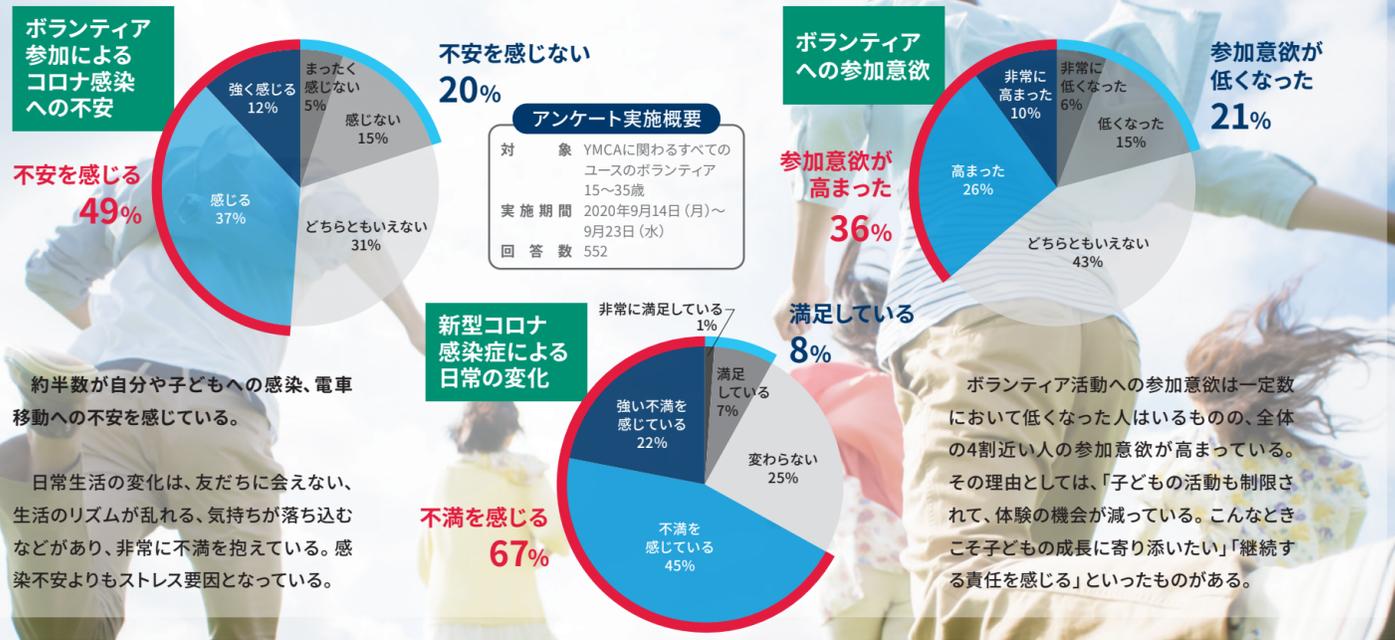
2年に1度開催している日本YMCA大会。今年度はオンラインによる開催にチャレンジします。困難なとき、新しいつながり方を得た私たち。いまこそ一人ひとりにあるつながる力を発揮して、ポジティブネットを広げます。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org>

全国YMCAユースボランティア意識調査報告

新型コロナウイルス感染症影響下におけるユース世代の生活とボランティア活動

全国のYMCAでは約90,000名のユースが、学校や学習の場、ボランティア活動の場として活動をしています。コロナ禍でYMCAの活動が大きく影響を受ける中ユースもまた、さまざまな困難を抱えながら生活や活動を続けています。日本YMCA同盟ユース委員会ではアンケート調査を実施し、今後のユースエンパワーメントの方向性を探りました。ご協力いただいたユースの皆さま、全国YMCAの皆さま、ありがとうございました。



アンケートから聞こえたユースの声

Voice

- オンラインの活動で、以前に比べて子どもたちとの接し方が難しかった。
- 途中でやめてしまうと周りに迷惑がかかるから。
- 実家にいるので、家族の了承が得られない。
- 子どもたちと会いたいから。
- ディレクターとリーダーの距離が近くなったことで活発な話し合いをすることができた。
- 学校の試験や課題・実習で忙しいときは遠慮せずに休める環境がほしい。
- リーダーやメンバーとのつながりから自分が必要とされていると感じるから。
- コロナのとき、スタッフの一人が全員に電話で面接してくれたのがありがたかった。
- 何かすることで誰かの役に立ちたい、そういった活動は自分自身の糧になると思う。
- なぜ子どもと活動するのかを考えた。それに対して自分なりに答えられたとき、自分の気持ちの整理ができた。
- もしコロナ感染者が出てしまったらどうしようという不安は常にあった。
- わからないことが多く、活動自体が実行できるのか、しているのか、という問題や実行した場合のコロナ対策の指針や方向性、周囲への配慮などさまざまなことが検討されるようになった。
- なぜ子どもと活動するのかを考えた。それに対して自分なりに答えられたとき、自分の気持ちの整理ができた。

調査からみえてきた顕著なポイント

- 大学3年一活動も学業も責任が増す時期だからその意欲低下**
YMCAのユースは総じてコロナ禍でもボランティア活動への意欲を維持しているが、大学3年生は、1・2年生と比較して、意欲低下が見られる。学業での課題が重くなったこと、経験を経てより多くの課題が見えたり、その解決にも困難が立ち足るなど、それまでとは異なる責任と役割を担う姿が見られる。
- ユースが必要としている支援**
感染予防対策に最も不安を感じている。また、アルバイト等ができて収入も減り、生活面の不安も増している。学業の継続や経済的な安定、感染予防に対する正しい知識や備えなどが求められている。
- コミュニケーション、合意形成の必要性**
これまでの活動を見直し、作り直す体験から「話し合いの大切さを実感した」というユースは多く、さまざまな努力がなされたことがうかがえる。明確な合意形成のためにも、スタッフとユース、ユース同士の相互のコミュニケーションや意思疎通がより求められている。
- オンラインの活用とさまざまな工夫**
オンラインによるプログラムも多数試みられ、回を重ねるごとに工夫があり、オンラインならではの「子どもとの関わり」も考えられていた。今後、新しいテクノロジーをユースがどう活用していくか、期待される。

全国YMCAユースボランティアインタビュー

私と世界に希望を！輝く未来を創り出すために

第51回全国YMCAリーダー研修会 実行委員インタビュー

9月19日(土)～21日(月・祝)、大阪・六甲山YMCAと全国のYMCAがオンラインでつながるハイブリッド方式で行われた全国YMCAリーダー研修会には57名のユースリーダーが参加、地域を越えてつながり、アクションプランが検討されました。今回は実行委員を務めた大阪YMCAのユースリーダーにお話を伺いました。



「私と世界に希望を！輝く未来を創り出すために」は、「やりたいことを叶える」や「自己実現」を軸にみんなで話しあいました。一人で考えるのではなく、人の意見を聞いたり、思いを共有することで可能性が広がるんだな、と実感しています。

リーダー活動が忙しくて大変な時期があり、そういう思いを周りとうちんと共有できたのがすごく良かったです。やっている最中は、運営としての責任をすごく感じていました。オンラインがフリーズして焦ったとき、固まったみんなの顔が優しい顔で、どうしよう！が一瞬で吹き飛びました。

準備は長かったけれど3日間あっという間でした。これで終わってしまうのは残念、と思っていたけれどアクションプランは続いています。大会が終わったここがスタートです！

リーダー | 平松 凜大さん (実行委員長)

委員をしてよかったことの一つは、たくさんOB、OGに会えたことです。話を聞くことで、リーダー活動と社会のつながりを感じることができました。

リーダー | 村上 明大さん

リーダー | 岡本 桃佳さん

アクションプランのアイデア

外遊び経験の少ないリーダーが増えたので、お役立ち情報のパンフ(キャンプ場、遊び場情報)を作っています！3月完成予定！

「Black Lives Matter」をピンクシャツデーのようなムーブメントにしたい！

子どもの心のよりどころを作りたい。リーダーが子どもの話をゆっくり聞ける、子どもがリーダーに何でも話せる場所。専門機関と協働して子どもの心の「居場所」を作りたい！

持続可能な社会に向けて若者の課題解決能力を発揮する場を！

Z世代の新しいYMCAユースサミット誕生 YOUTH-LED SOLUTIONS SUMMIT SERIES 2020-2022 (YLSSS)

世界YMCA同盟は、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて「若者主導の課題解決」サミットをスタートさせました。2020年から2022年にかけて5回にわたり開催する予定です。



日時：2020年10月19日(月)～23日(金) 参加者数：約600名(46か国、80チーム)

日本からの参加者：8名(学生YMCA、大阪YMCA、横浜YMCA、日本YMCA同盟)

国内外のYMCA関係者とつながり、各国の具体的な取り組み、Climate Justice(環境正義)の考え方などを学びました。それらを自分自身の意識や行動の変化につなげ、YMCAに關するすべての人に波及させていくことが次世代への責任と感じました。コロナ禍でも画面に映る世界中のユースとオンラインで学び合いつながることは可能である、と体感しました。(大阪YMCAユーススタッフ 大島 滯さん・永山 優香さん)

気候変動をテーマに各国でプロジェクトチームを組織し、アクションプランづくりを行います。希望チームは、総額15万ドル(1チーム1～6千ドル)のファンドに申請することも可能です。

話し合いの過程では、スキー場の非効率なエネルギー使用改善から藻場の有効活用や雨傘シェア等、さまざまなアイデアが出ました。思った以上に日常には無駄な資源やシステムがあること、自分たちでもできることはたくさんあるということがわかりました。世界のユースたちの気候変動に対する危機感や行動を起こすエネルギーには圧倒されるものがあり、意識が大きく変わりました。(京都大学YMCA 本間 樹来さん)

私のチームでは海洋汚染を共通の問題意識として取り組みました。そこで感じたことは、話し合い、意見を共有することの大切さです。見る視点が違うことで知識や捉え方の幅も異なります。さらに世界のレベルでは、国や年齢が離れているからこそ刺激し合うことができ、そのプロセス自体が目標達成のための手段になると実感しました。チームの活動は、サミット後も定期的な学習会やミーティングとして続いています。(日本YMCA同盟インターン 高田 望さん)

オンラインによる全体会や個別のセッションでは、さまざまな場面で、「We are happy to listen your voice」「This is the safe space」「ユースの声が聴けて嬉しい」「ここは安全な場所だ」などの声かけが絶えずなされ、YMCAとしてのメッセージが共有されていました。

私たちの世界には解決が望まれる課題が山積みで、そのことに多くの人が気づいています。また、そうした課題について自分たちで調べたり、考えたりする「学びのスタイル」も拡がりつつあります。

日本YMCA同盟では、株式会社Unpackedとともに、2020年8月末に高校生グループを対象としたアイデアソンコンテストを行いました。3人1組の高校生たちが世界を良くしていくためのアイデアをベースに企画を練り、プレゼンテーションでその発想のユニークさ、実現可能性などを競い合うコンテストです。オンライン会議システムも利用して、リモートとリアル会場とのハイブリッド型コンテストには14組36名が参加。海洋ゴミのリサイクル、学校の教科書・制服の合理化、高校生のキャリアの相談マッチング、途上国の子どもたちへのオンライン教育支援など、それぞれによく練られた内容が披露されました。実現までの工程表や想定したマーケットへのアクセス方法、その際に必要なコスト計算とビジネスとしても持続可能となる仕組みが次々と提示されました。

インスタ映えする非常食! アイデアソンコンテスト YMCA x Unpacked賞

「かわいくて、持ち運びしたくなり、インスタ映えする非常食」のアイデアが見事、YMCA x Unpacked賞に輝きました。

非常食といえば、「パツとしない、美味しくないのでその場しのぎでお腹を満たすもの」という日陰の存在ですが、女子高校生グループRe:Charityの手にかければ、それを思わず携帯して、自慢したくなるインスタ映えするものに。ファッショナブルに防災意識を高めようというアイデアです。商品開発や資金調達プラン、食品メーカーとの連携というビジネスモデルと、高校生たちをインフルエンサーに社会に広げようという提案がされました。

YMCAには、避難所運営や仮設住宅支援をはじめ災害支援の多くの実例があり、今後、高校生たちが実際の被災者や支援者へのインタビューを通してより具体的に課題の解決につながる道筋を共に考え、実現に向けて進めます。ぜひ、お楽しみに。



#なんとなくから卒業だ 高校生による高校生のためのキャリア開発

アイデアソンに協力してくれた株式会社Unpackedは大学生、高校生により起業・運営されています。学生が起業を目指すことでイノベティブな考え方を学び、日本や世界を支える人材を育成することを目的に発足し、中高生300名以上が集まる日本最大規模のキャリアイベント「U18キャリアサミット」を主催しています。アイデアソンコンテストのほか、YMCAが企業と進めるプロジェクト型寄附の企画でも協働しています。

Unpackedのミッションは「Find U for GO CRAZY-」。CEO (Chief Evangelist Officer) でN高等学校生の三橋龍起さん(写真右上)の目標は「世界中の人々が、夜寝る前に明日も楽しみだな、と思える社会をつくること」。いま、この年齢で感じて行動することを大事にしたいと、活動に専念するため、4月から進学予定の大学は入学と同時に休学する計画です。

COO (Chief Operating Officer) 中澤治大さん(写真左下)は「高校生のためのキャリア開発を、高校生が行っていることに意味がある」と語ります。「やってみたく『何か』をかたちにすることができれば、10年、20年先の自分のキャリアを自分で創り出すことが



できると思う。なんとなく進学、なんとなく勉強、なんとなく就職、それでいいのかと感じている高校生に一步目を踏み出すきっかけをつくりたい」と話してくれました。



オンラインを続けてみよう

学生YMCA



2020年度前期、全国の大学でオンライン授業が取り入れられました。もちろん、新型コロナウイルスの影響です。後期に対面授業を一部再開した大学もありますが、それでもオンライン授業は続いています。

オンラインだとどこにいてもすぐ会えるね!と喜んだのは最初だけで、オンライン授業の参加と課題提出に追われ、キャンパスにも行けず、友だちにも会えずというニューノーマルな大学生活に疲労感を感じ「オンラインはもううんざり」という大学生も多いと聞きます。「オンライン、オンライン、オラいらん」とある学Yシニアの大学教授による名言ですが、いっこうに衰えない新型コロナ感染拡大と相まって、大学生含め多くの方に共感いただけると思います。

それでも学生YMCAではリアルな世界では実施しにくくなった活動の継続をオンラインで、と呼びかけています。今年の九州地区の夏期学校では「Black Lives Matter」をテーマに皆で考え、各地での聖書研究会では聖書の言葉から自分たちの思いや経験を分かちあいました。また、これまでつながりが持ちにくかった若い社会人である学Yシニアとも「コロナ禍に生きるわたしたち」を共通テーマにそれぞれの生活や仕事、家族について語るオンライン企画を5回にわたり実施しました。

「コロナ禍に生きるわたしたち」は2月にオンライン開催する全国学生YMCA夏期ゼミナールでも共通のテーマです。それに向けた準備として11月から3か月連続でオンラインでの「月いちゼミナール」を開催しています。もう右を向いても左を見てもオンラインです。

大学生の皆さん! 皆さんがオンラインに疲れているのはよくわかります。それでも学生YMCAはオンラインでの活動を継続します。カメラを切ってもいい。ライブ参加じゃなくてもいい。こんなしんどい時代だからこそ、大学、地域、世代を越えてYMCAに連なる人たちと一緒につながっていきましょう。



学生YMCA・東京YMCA 2021年度新入寮生募集

全国には学生のためのYMCA寮が11カ所あり、各寮では、学生による自治を基本とした共同生活を通して、自主性と協調性を培っています。130年以上の歴史があり、多くのリーダーを社会に輩出してきたYMCA寮。現在、2021年度の新入寮生を募集中です。関心のある方は、お気軽にお問い合わせください!

北海道

北海道大学YMCA汝羊寮
男子・北大生のみ
TEL 011-736-9918

京都府

京都大学YMCA地塩寮
男女・他大学生応相談
TEL 075-751-9744

京都府立医科大学YMCA橋井寮
男女・府立医科大学生のみ
TEL 075-771-6913

福岡県

九州大学YMCA一麦寮
男女・九大生のみ
TEL 092-707-6464

長崎県

長崎大学YMCA浦山寮
男子・長大生のみ
TEL 095-846-9241

熊本県

熊本大学YMCA花陵会
男子・熊大生のみ
TEL 096-343-1432

宮城県

東北大学YMCA淡水寮
男女・他大学生応相談
TEL 022-249-3564

東京都

東京大学YMCA
男女・東大生のみ
TEL 03-3811-1778

早稲田大学YMCA信愛学舎
男女・他大学生応相談
TEL 03-3203-2858

一橋大学YMCA
男子・一橋大生のみ
TEL 042-843-0542

東京YMCA山手学舎*
男子学生のみ
TEL 03-3202-0321

*学生YMCAの寮ではないが、大学生寮としてYMCAが運営